

さい銭を投げ入れて供養 朝日寺の投げ銭供養

7月18日、庄田山朝日寺（邑久町庄田）で如法経法会（投げ銭供養）が行われ、檀家ら約300人が戦死者やこの夏に初盆を迎える新仏を供養しました。

読経のあと、僧侶が故人の戒名と施主の名前を読み上げると、縁故者や知人らが白い紙に包んださい銭を祭壇に向かって次々と投げ入れました。

祭壇前の赤いじゅうたんは、たちまち白い包みで埋め尽くされました。

江戸時代に始まったものと伝えられ、全国的にも珍しい行事であり、市の無形民俗文化財に指定されています。



祭壇前のじゅうたんを埋め尽くすさい銭

収穫を楽しみました とうもろこし大収穫祭



子どもたちも自分で収穫（左下）／多くの親子連れらが来場（右上）

7月23、24日、邑久町下笠加の畑で農事組合法人ネオ・アシスタント淳風によるとうもろこし大収穫祭が開催されました。1.8haの畑に甘みの強いゴールドラッシュ種が約6万株栽培され、南北2つに分けて2日間で収穫を行いました。

当日は朝早くから親子連れらが訪れ、会場はにぎわっていました。台風の影響を受け傾いたものもありましたが、参加者は畑に分け入って次々と収穫しました。

子どもたちは、実を見つけては「おっきいのがあったよ」などと声を上げ、手にしたかごいっぱい収穫していました。

笑顔でパチリ 甲冑着付け体験と撮影会

7月31日、備前長船刀剣博物館で「古い甲冑着付け体験&撮影会」を開催しました。

これは、9月4日（日）まで開催される特別展『戦国 BASARA』HERO 武器・武具列伝の関連イベントとして、備前岡山城鉄砲隊の協力を得て行ったものです。

参加者は、江戸時代中期や幕末に作られた約20kgの甲冑を2人がかりで5分ほどで着付けてもらい、まずは鏡で自分の姿を確認しました。その後、合戦の様子に思いを馳せながら、薙刀、法螺貝、馬印などの武器・武具を持ち、記念撮影を楽しみました。



甲冑を身につけて、「はい、ポーズ」（左下）／特別展の会場を巡る来場者（右上）

cover photograph

今月の
表紙



8月3日、東京ビッグサイト（東京都江東区）で第46回交通安全子供自転車全国大会が行われ、裳掛小学校6年生児童6人が出場しました。児童たちは、県大会で優勝し全国大会の出場権を得てからは、一層練習に励んできました。市長、警察署長、議長、地元PTAなどから激励を受け、大会に臨みました。上位入賞を果たすことはできませんでしたが、精いっぱい練習の成果を披露しました。

もちもちした食感に仕上がる 米粉ピザ作り体験



レンガの窯で一気に焼き上げ（左下）／生地の上に具材をトッピング（右上）

6月25日、寒風陶芸会館（牛窓町長浜）で米粉を使ったピザ作り体験を開催しました。使用した米粉は、市内で栽培された巨大胚芽米「はいぶぎ」から作ったものです。参加者は、生地をのばし、野菜、ベーコン、チーズなどの具材を次々と盛りつけていきました。

敷地内に耐火レンガで組んだ窯を準備し、1枚5～10分程度で焼き上げました。

焼き上がったピザは、事前に参加者が絵付けし作成していたお皿に盛りつけました。

参加者は米粉生地独特のもちもちした食感を楽しんでいました。

知識・研究成果などを活用 岡山商科大学と包括連携協定

7月12日、岡山商科大学と瀬戸内市は、包括連携協定を締結しました。この協定により、文化・産業・学術などの分野において、大学と市が互いに、人材交流し、知識・研究成果などを活用できることとなります。

協定書調印式で、武久顕也市長は「外部と一緒に新しい取り組みを行うことが求められている状況で岡山商科大学と連携できるのはありがたい」と、井尻昭夫岡山商科大学学長は「研究成果を社会に還元できる場を頂いた。Win-Win（ウィン-ウィン）の関係で未永く連携して行きたい」とそれぞれの思いを述べました。



協定書調印式で握手をする井尻学長（右）と武久市長